

咲かぬ花はなし

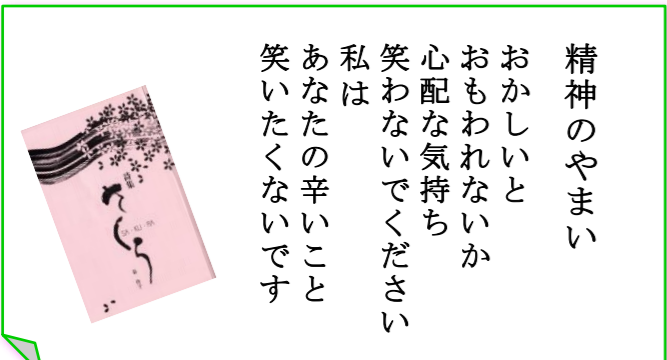
本人

同じ疾患を持つる人でも、性格や考え方の感情は全く違う場合があります。教科書に書いてある通りだったら、悩んだりしんどい思いをしりません。誰にでも持つる精神面が極端にわかりやすいだけだと思ってるし、思ってもらいたい。止まぬ雨は無し。咲かぬ花は無し。これからもボチボチとがんばりますので、皆さんどうか宜しくお願いします。

心が折れた

曾根 朗

人は道なき道を追いかけて、社会からも道徳からも、人と人の付き合いを学ぶが、理解不能に落ちてしまう。こっちは良くて、あんたが悪いと言われ、心の中がポキッと折れる思いをする。いつの間にか、自分が悪人になってしまふ。こうげきの対象になってしまい、キズつく。思いもしない所にほうむられる。自分自身悪気が無いのに心が折れた、キズついた。相手にされなかった。どうしたら理解されるのか、心の病を持った自分たちは難しい。心の病でコロコロ変わるんとか、変にプライドとか持つる人はどう思うのだろう。自分は心の病になって16年、でも前ぶれを思えば20年近い。ストレスで心が折れて今でも悲しい、生きていくのがつらい。耐えきれぬだろうか？この人生。この気持ちは健常者と同じです。

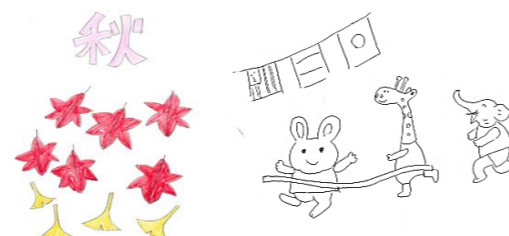


精神のやまい
おかしなところ
おかしなところ
おかしなところ
おかしなところ

詩集 さくら / 春 待子 (はる まちこ) から転載
本名・酒井 田美子 (1960~2003)
小学校一年生の頃から絵日記を描きはじめ、中学・高校と詩に熱中、才能を発揮。惜しくも享年40歳で他界。
~詩集の奥付から~



ジェームズ・ディーン
ペン画



濱田 茂雄 太 郎

“地域での共生拡充を” ~相模原事件と精神保健福祉法改正~

理事長 伊東久雄

はじめに

去年の痛ましい相模原事件と今国会で継続審議になった精神保健福祉法改正案について、各方面から意見が寄せられている。これに関して、障害者、家族・支援者、市民はどう受け取ればよいのだろうか？----市民の皆さんにも是非ご理解ください。

《障害者隔離こそ問題》

狂気のナチスの優生思想を連想させる「障害者は不幸をつくる、殺してもよい」事件の容疑者の言葉、絶対許すことのできない発想----この事件取材した過日のNHK「クローズアップ現代」はSNSで容疑者と同じような優生思想のコメントが少なくないことを報じた。なぜか？ その背景に次の現実がある。

事件現場の「津久井やまゆり園」と同規模の全国障害者120施設で「障害者の4割が入所25年以上という(17.7.19毎日新聞)。平成28年版障害者白書によれば、身体障害者7万3000人、知的障害者11万9000人、精神障害者31万3000人、実に計50万5000人が入所している。知的障害者の6~7人に1人は入所、精神障害者では1年以上入院20万人以上。OECD(経済開発協力機構)先進国での精神科病床の平均入院日数36日、日本の平均入院日数298日----。障害者の入所者数が日本は世界で際立って多い(障害者協議会代表 藤井克徳氏ネット発言より)。

以上は先進国として恥ずかしい異常な実態の例。多くが隔離された障害者ゆえに、身近にいる本人や家族とその困難について日頃話できる市民は少ない。では、施設職員だった容疑者がなぜという問題がある。

《措置入院の何が問題か》

事件容疑者が精神科病院に一時措置入院(*1)していたことから、事件を受け国は措置入院後支援策等による精神保健福祉法改正案(*2)を提案、障害者団体から社会防衛・犯罪予防優先等の理由で反対の声が上がっている(*3)。私はこれを契機に、精神疾患とともに暮らす人たちをどう支えるかについて、何より当事者である患者・家族が声を上げ、行政・医療・支援者の連携を少しでも前進することを望む。

来日したニュージーランド人が日本の精神科病院で身体拘束の後死亡したと遺族が過日発表した。彼の母、「動けないまま亡くなり本当に悲しい最期だった。身体拘束をなくしてほしい」の声！ 2014年日本の精神科病院の身体拘束患者は約17000人、外国では数時間から数十時間の拘束だが国内平均96日という(17.7.20記事)。半世紀前1968年WHOクラーク勧告はこうした現実の改善を日本に求めた。

病のため、施設棟で何もない保護室に隔離、拘束などの実態は人権侵害、とくに憲法34条保障の不必要な身体自由制限ではないかと兵家連(公益社団法人・兵庫県精神福祉家族会連合会)を通じて私は兵庫県に実態調査・結果公表等を要望してきた。厚労省は、誰でも生涯5人に一人が精神疾患に冒されると公表(WHOは2001年4人に一人の生涯有病率と報告)。やむを得ない入院の時、もしこんな扱いを受けたら----まず、このような現実を知ること。

現在、相模原事件は裁判も始まっていないにもかかわらず、容疑者が精神障害者との印象が一部広まっている。それは根強い偏見のひとつの表れと思う。

手作りお昼ごはん

森本めぐみ

メンバーさんの「たまには温かい手作りごはんが食べたい」という要望を受けて、やすらぎ工房ではこの4月から月に1回、『手作りお昼ごはんの日』を設けています。職員1人、メンバー有志2人で、約25人分のお昼ごはんを作ります。担当月には、メニューの考案から買い出しまで3人で取り決めますが、メンバーからのアイデアメニュー、食べてみたい希望のメニューはすんなり発案されます。☆多
これまで6回のメインメニューは、チキンカレー、ビーフシチュー、キーマカレー、冷やしラーメン、スタミナそうめん、マーボー丼。どの回も3人の頑張りでもみんなに喜んでもらっています。毎月楽しみな日♪として定着しています。



スタミナそうめん

編集後記

9月3日のテレビNHKSP「世界初の冒険・極北デナリ大滑走」は、北米最高峰デナリ(6190m)の気温マイナス30度、平地の半分の酸素など過酷な巨大な絶壁をスキーで滑降する世界初の挑戦に、佐々木大輔さんが挑み、その大冒険を4Kカメラが捉えた大迫力の映像である。大自然美とどこまでもやり遂げる彼の意地、チャレンジに心から感動した。人生一度きり、誰でもそれなりの「冒険」ができるのだ、恵まれた才能の持ち主のように派手に注目されなくてもと思った。当事者の一人がホームヘルパーの資格を取得をしたという。ひとつのチャレンジ! 誰にとっても、最後まで「冒険」の人生ではないで

James Dean(1955年、24才没(自動車事故)・米俳優) 身辺整理をしていたら、1957.1.21とある似顔(ペン)画が出てきた。毎月貸本屋で兄が借りて来る「SCREEN」誌から描いた記憶がある。知る世代も知らぬ世代も、ジェームズ・ディーンと検索してみてもは如何ですか? (ひざき)

お願い

~賛助会員になってください~

NPO法人そよかぜねっとは、精神しょうがいのある人たちが安心して、自分らしく、自立して暮らせる地域創りを目指し、就労継続支援B型事業「やすらぎ工房」の運営、啓発・広報、地域交流活動を行っています。

一人でも多くの方のご理解とご支援を願っています。

年会費：個人2千円・団体3千円
(会費は、法人の運営費に充当されます。)

~ご賛同頂ける方は、下記電話までご連絡ください~

払込用紙(手数料不要)を送らせていただきます。
☎ 0794-85-9990 ・ FAX 0794-60-4533

◀ -1面からつづく- ▶

《地域での自立した生活実現が課題》

2014年日本が批准した国連障害者権利条約第19条(a)「障害者は、他の者との平等を基礎として、居住地を選択し、およびどこで誰と生活するかを選択する機会を有すること、並びに特定の生活施設で生活する義務を負わないこと」そのために地域社会で障害者が自立した生活ができるように地域社会支援サービス等を利用できるように(同条-b)立法・行政措置が締約国に義務づけられている(第4条)。

現状は本人が利用できる社会資源が極めて少なく、同居しなければならない高齢化する家族が疲弊し、親亡き後の不安から逃げられない。財政難を理由に社会保障費が削減される流れの中、本人が地域での自立した生活はまことに実現の遠い課題であるが、あきらめずに足元から僅かな一歩でも踏み出していきたい。

<注>

- *1 精神障害者が入院させなければ自傷他害の恐れがある場合、都道府県の権限と責任において精神科病院に強制入院させること
*2 <厚労省HPより>精神疾患患者の医療充実、都道府県は患者の措置入院中に精神障害者支援地域協議会(市町村・警察等・医療関係者・障害福祉サービス事業者・障害者団体・家族会等参加)・個別ケース検討会議(本人も含む)の設置、精神保健認定医制・医療保護入院手続等の見直し等の内容
*3 多くは相模原事件の再発防止と連動して論じられることに懸念している。公益社団法人 全国精神保健福祉連合会(全福連)意見から抜粋一例〜「地域の受け皿が整っていないければ、家族が抱え込み、結果として監視にならざるを得ない----地域包括ケアシステム構築の際には家族支援の具体化を求める」



あとがき

このテーマはかなり複雑な問題ですが、今の社会のある一面を映していると思います。何かご意見があれば寄せてくださればうれしい限りです。(2017.8.22記)

施設外就労について 犬飼恵美奈

やすらぎ工房では、施設の中で多種類の内職作業を行う他、施設外の契約事業所に当事者・職員が出向いて作業を行う施設外作業も積極的に行っています。現在3事業所で、週延べ8回、当事者延べ32名と職員延べ9名(平均)が作業しています。

工場(金物製造補助、ウエス選別梱包)では、従業員の方と一緒に汗をかきながら作業します。三木市役所では、2階の1室で、色々な部所から依頼を受けて、事務的な補助作業・雑作業をしています。

いつもと違う環境の中で、やすらぎの職員でない人たちと交流することで、コミュニケーションや自己判断の力がレベルアップできています。また、体力仕事、事務仕事の両方が体験できるので、社会に踏み出す大きな一歩になるのではないのでしょうか。

私たち職員も、メンバーさんがより自立に近付けるよう支援に力を入れていきます。

元気をもらうー理事になって 片山操代

昨年より理事の一人に加わらせていただきました。「やすらぎ工房」とはご縁があり、細く長く繋がっていましたが、このようなお付き合いになるのは想定外のことで、不思議なご縁に驚いています。今は事業所を訪れるたびに、笑顔と元気をもらっています。

私自身知的障がいの子を持つ親となり30年。わかってはいるつもりでも知らなかったことや、落ち込んだ時期もありましたが、嬉しい出会いや感動もたくさんありました。今は、これから息子やハンディのある人たちの生きて行く社会が、行政上の言葉だけではなく、障がいのある人も無い人も同じように、社会・地域の総活躍者の一人として輝ける社会となることを願っています。

「NPO法人そよかぜねっと」「やすらぎ工房」の発展と利用者の皆様のご活躍を応援し続けます!! また、ご家族の方のお幸せを願い続けます! よろしくお祈りします。

相模原事件を通して思うこと

相模原事件からもう1年も経つのかと思う反面、当事者や家族にとっては決して早い月日ではなかったのではないかと感じます。

事件を通して思うことは、なぜ精神障がい者にはばかり焦点が当たるのかということです。事件が起きたときに、まず精神障害という言葉が独り歩きする根本にあるのは社会の中にある'差別意識'なのではないでしょうか。今回差別意識について少し思うところを書きたいと思います。

差別は障害に限ったことではありません。「独身であること」「子どもがいないこと」「病気であること」「性の不一致があること」「肌の色が違うこと」「言葉が違うこと」「国籍が違うこと」「学校が違うこと」「宗教が違うこと」等々、あげればきりが無いように思います。

私たちは法律の下、社会のルールやマナーを守って生活しているにも関わらず、それに加えて「〜すべきである」「こうすることが普通である」など、ある種押し付けられる暗黙の常識・ルールというものに支配され、誰かと比較し、安心したい、比較した結果安心に当てはまらなければ得も言われぬ罪悪感や劣等感を覚える、そんな社会に見えます。何か見えないものにおびえ、自分を守るために攻

撃をする...そんな風に。違うことはいけないことなのでしょうか? 違いがあったとしても、それだけの要素がその人を構築しているのではなく、その人の一要素にしか過ぎないのですが、その「一要素」にとっても大きなライトが照らされ、浮き立ち、何か全く違うものが作り上げられるように思えてなりません。そういうライトの照らされ方をした時には、いい映り方はしないものです。そしてそのような社会である限り、差別という言葉・状況は決して無くなることはないのだと苦しくなります。事件から見えてくるのは精神障害だけのことでなく、社会全体の大きな大きな偏見や差別の壁だと私は思っています。

とあるライターさんが書かれた文章の中に、「ただ私自身として生きていきたいです。」という一文がありました。私もまた、ただ私自身として生きていきたいのです。障害のあるなし、見た目の違いや考え方の違いがあれども、誰もが誰と比較するでもなく、ただ自分自身を一生懸命に生きることが出来たならば、互いに個を認めることが出来、差別や偏見といった言葉は過去のものになる...そう思っています。

北上 亜矢子

〜就労継続支援B型事業・第8年度〜

◆年間250日開所、4,913人が利用 ◆利用者の工賃平均は 9,194円/月 ◆46万円のH17購入助成金を収受

Table with columns for Utilization (利用者) and Staff (職員). Includes data for number of users, age groups, and staff counts.

Table with columns for User Wages (利用者工賃) and Staff Salaries (職員給料). Includes data for average wages and salary components.

Table for Volunteers (ボランティア). Shows 8 members and 78 hours of service.

Table for Access (アクセス) and Assets (保有不動産). Lists nearby locations and property details.

Table for Facility Overview (施設概要). Details floor area and building information.

Table for Building Details (別棟). Lists specific rooms and their areas.

Table for Income (収入). Breaks down training subsidies, income, and expenses.

数字で見る『やすらぎ工房』 28年度実績による

Table for Assets (資産). Lists land, vehicles, and equipment.

Table for Expenses (支出). Lists salaries, social security, and other costs.

Table for Staffing (別棟). Lists staff counts for different areas.

Table for Parking (駐車スペース). Details parking availability and fees.

Table for Income (収入). Summary of total income and expenses.

Table for Expenses (支出). Summary of total expenses.

HomePage is [やすらぎ工房三木] inspection is possible. Left top is Hit, bottom left is Mo/Koto, right half is Kana.